



## 診療部ご紹介



内科



※ 前号(第12号)で4月より当院に転入されました医師のご紹介をいたしましたので今号に掲載してありませんのでご了承ください

病院長 高橋達

地域の先生方にはいつもお世話になり、誠にありがとうございます。御座います。小生の専門は消化器内科です。取得した資格としては消化器病専門医・指導医、肝臓専門医・指導医、消化器内視鏡専門医・指導医です。そのほか、内科一般として内科認定医、総合内科専門医の資格を有しています。該当の疾患を持つ患者様がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介くださるようよろしくお願い申し上げます。

副院長 小幡明博

いつも貴重な患者さんをご紹介いただきましてありがとうございます。新潟厚生連小千谷総合病院内科に勤務しております小幡です。私は、平成6年に財団法人小千谷総合病院へ赴任させていただき、それ以来この地域での医療に従事させていただいております。

私の専門領域は循環器内科であり、新潟大学や立川総合病院、済生会川口総合病院、済生会新潟第二病院で循環器内科の研修を行い、この地域にまいりました。循環器疾患の主体は、心不全と不整脈であり、そこに弁膜症や虚血性心疾患、心筋症、先天性心疾患、動脈疾患などが関与します。心血管疾患に対しては、カテーテル治療や外科的治療が必要になる場合がありますが、当院では現在のところまだ困難であります。従いまして、ご紹介いただいた患者さんにそのような対処が必要と考えられた時には、対処可能な施設へ紹介させていただきますので、気軽にご相談いただければと思っております。不整脈についても同様であり、徐脈性不整脈及び頻脈性不整脈とも当院で対応させていただきますので、ご紹介いただけましたら幸いです。

副院長 小林政

小千谷近隣の地域医療を担っておられる皆様、お疲れ様です。小千谷総合病院内科の小林です。専門は血液です。一線病院の前職(長岡中央総合病院血液内科)を退き早数年以上経過しています。血液医として随分と退化してきたと感じています。小千谷で診させてもらっている患者様は、当然地域医療色が強くなり、80、90歳台の高齢者やADL不良、認知症患者等の割合が多いです。このような患者様を相

内科部長 田沼厚人

当数受け持ちながら、血液疾患を担当しています。前職からの患者様に加えて血液患者様の数は多くなり、特に慢性骨髄増殖疾患（慢性骨髄性白血病、真性多血症、本態性血小板血症）は、地域人口からするとかなり多いかと思えます。また、多発性骨髄腫では闘病意欲のある患者さんがおられ積極的な化学療法を施行しています。骨髄不全（再生不良性貧血、骨髄異形成症候群）も、高齢者に罹患率が多く輸血件数も多くなっています。また、特発性血小板減少性紫斑病は、高齢者にも多いということをご存知でしょうか。意外に多いです。

血液科は地域医療でもニーズは高いです。血算異常などあり、血液病かもと思われたら、お気軽に地域連携室へお問合せ下さるとありがたいです。

副院長 柳雅彦

3年前に旧魚沼病院に着任した際に、本稿で自己紹介・病診連携の大切さ・病院統合による小千谷地域医療への想いなどを、拙い文章でご紹介させていただきました。（今見直すと赤面するほど恥ずかしいものですね）

この3年間わたし個人としては臨床現場で微力を尽くしてきたつもりです。患者さんや家族さんの声に耳を傾け、同僚で相談し検討し、治療や方針を提示して、最終的に本人・家族・地域のなかでの「幸せを実感できるように」を追求してきたつもりです。これが実際に善行であったかは、小千谷地域の皆さんにご評価いただく時を待たなければなりません。医者人生28年目に入りましたのでこの姿勢を変えるのも容易ではなくなりました。（もう変わらないですよ。）この間に旧小千谷総合病院と旧魚沼病院が統合され本院誕生が実現しました。その間際の時期から立ち会わせていただきましたが、現場レベルの私が一番腐心したのは「スタッフ間の理解と協働」でなかったかと振り返ります。しかし本院のスタッフの「目の前の患者さんのために」という想いは共通でしたので、統合後もあまり違和感はありませんでした。現在も業務量に比して人員不足は否めませんが、想いを一つとして日々の医療に取り組んでいると思っています。さらに広い領域・地域で様々な病態の患者さんに包括的なケアを考えると、とても一医療機関で完結できるはずもなく各方面の医療機関との協力がが必要です。またこの業界はまだまだ「顔の見える関係」というアナログな面を持っていますので、医師会イベントなどにはなるべく参加してきました。医師会の先生方からは大変可愛がっていただき感謝しておりますし、また紹介患者さんの紹介状に先生方の面影がうっすらとみえてくるようになり診療中も心が和むものとなりました。

私は消化器内科を専門としていますが、基本姿勢は「皆が幸せを実感できるように」ですので、この方面でしたら楽しく診療させていただいています。今後もご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

内科部長 家里裕

昭和49年に群馬大学医学部を卒業して第二外科学教室に入局しました。当時は、外科系の希望者が多く、第一、第二を合わせて15人前後の入局者がいたと思います。心臓血管外科から消化器外科まで幅広く勉強しました。昭和59年に旧小千谷総合病院に外科医として就職しました。今から15年位前から外科医としては体力的に厳しくなり、病院の都合もあり、一般内科医として診療に携わっています。2年前にJA新潟厚生連小千谷総合病院が誕生し、一般内科、総合診療科として診療しておりますが、元々外科医だった経歴を生かし、内科・外科に渡る一般診療を目指したいと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

小千谷総合病院内科に勤務しています田沼厚人と申します。故・黒川和泉先生のお誘いで旧栃尾郷病院から2009年に旧魚沼病院に赴任しました。今年で小千谷在住10年目です。新潟大学第二内科の出身で腎班に所属していました。慢性腎臓病、腎不全、高血圧、ネフローゼ症候群、電解質異常などお困りの症例がございましたらお力になればと思います。小千谷に赴任してからは特に糖尿病診療に力を入れています。幸い当院は療養指導士をはじめスタッフに恵まれており食事、運動療法などからGLP-1注射製剤およびインスリン導入まで様々な進行度、病態に対応しています。以前から好評を頂いていた糖尿病教室も本年4月から新潟大学内分・代謝内科の先生の応援を頂きさらに充実した内容にリニューアルされています。初めての方はもちろん、一度受講された方でも大歓迎ですのでご連絡ください。

地域の高齢者のケアも重要です。超高齢者の健康問題、レスパイト、社会的入院なども可能な限り対応させていただくつもりです。ご相談お待ちしております。

内科医長 山田一樹

2017年4月より勤務しております山田一樹と申します。出身は新潟大学です。2004年卒業で、私達の代から新しい臨床研修制度がスタートしてその一期生でありました。2年の研修のち消化器内科を選択し、3年目に長岡赤十字病院で消化器内科医としての第一歩を踏み出しました。その時にお世話になった院長の高橋達先生、副院長の柳雅彦先生と再び同じ病院で勤務していることに、浅からぬ縁（勝手に）感じております。専門医資格は総合内科専門医、消化器病専門医、肝臓専門医を取得しておりますが、当院におきましては一般内科としての外来ならびに入院診療の割合の方が高くなっており、日々勉強であります。それぞれの専門の先生方のお力添えを頂き、患者様ならびにご家族様の支えになれるよう努力して参ります。至らぬ点もあるかと存じますがよろしくお願ひいたします。

内科医長 保川亮太

いつも地域の先生方におかれましては、腎臓内科に患者様をご紹介頂き、ならびに退院後のご加療をいただき誠にありがとうございます。地域の中核病院として、患者様や先生方のお役に立ちたいと考えております。健診や人間ドック等で、程度にかかわらず検尿異常や腎機能異常の指摘をされた患者様がいらっしゃれば、お気兼ねなく一度ご紹介いただければ幸いです。当科で精査し、現行治療の継続や、当科での治療の変更や追加、またはさらに高度な病院への紹介の是非等、専門医より判断をさせていただきたく存じ上げます。現在当科では、適応時には腎生検を含め精査をし、残念ながら末期腎不全に至った患者様に対しては、腎代替療法として血液透析や腹膜透析を施行し、また腎移植のご希望がある患者様がいらっしゃれば新潟大学医学部総合病院へのご紹介をいたします。

今後とも腎臓内科を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



小千谷市在宅医療・介護連携支援センター  
『令和元年度第1回退院支援勉強会』を開催しました！

〈日時〉 令和元年7月23日(水) 18:30~20:00

〈場所〉 小千谷総合病院 講堂

〈内容〉 1. 小千谷さくら病院の機能と役割

小千谷さくら病院 病院長 山崎元義様

2. 小千谷さくら病院地域連携室の紹介

小千谷さくら病院 地域連携室主任

医療ソーシャルワーカー 高野匠様

3. 小千谷さくら病院看護部の紹介

小千谷さくら病院 看護部主任 米岡敦美様

看護部主任 蛭澤みゆき様

※ 質疑応答 小千谷さくら病院 看護部長 大谷勉様

〈参加者〉 90名(医師、歯科医師、看護師、保健師、薬剤師、介護支援専門員、リハビリ、管理栄養士、歯科衛生士、施設相談員、行政MSW等)



平成30年2月に退院支援勉強会を始めてから今回で5回目の開催となりました。前回に引き続き「小千谷地域の医療体制を理解する」をテーマとし、小千谷さくら病院の皆様を講師にお招きしました。病院長の山崎先生をはじめ講師の先生方からは、小千谷さくら病院の現状とともに機能や役割、また様々な取組みについてご紹介いただき、参加者からは改めて小千谷さくら病院を知る機会となったと大変好評でした。

今後はこれまでの退院支援勉強会の積み重ねを繋げ、小千谷市や医師会、地域医療・介護関係機関の皆様と共に退院支援における医療と介護の連携の一つのツールとなる「退院支援ガイド」の作成を検討していきたいと考えています。

## 休診日のお知らせ

8月の休診日は

8月15日(木)となっております

### ～ 編集後記 ～

これから盛夏を迎えますが、皆様は夏のご予定はお決まりですか。お祭りや花火大会、海水浴など夏は楽しい事が盛りだくさんです。体調など留意されましてお過ごし下さい。さて、今回の地域連携室だよりは、内科の先生方のご紹介をさせて頂きました。これからも当院内科に患者様のご紹介をお願い申し上げます。

J A新潟厚生連小千谷総合病院  
患者サポートセンター

TEL : 0258-81-1616 (直通)

FAX : 0258-81-1602 (直通)